ブラジル人の見た日本の森林

Akemi KAN
（鹿児島大学工学部）

一年前日本に到着した時冬でしたので，その時の景色は本当に「寒い色」というかんじでした。母国では一年中緑が見られますが，それとは，ずいぶん違いました。

しかし，来日してすぐ一カ月がたち，三月に入り，木に緑の芽がぽつぽつ出始め，山や公園が少しずつ青々とした緑色を見せてくれました。その緑の色調の違いがとても美しかったです。

そして，三月の末から四月にかけてはなんとも言えないほど美しい櫻の花が所々に咲き，楽しいお花見を何度もすることができました。その時，日本の国のことをブラジルでは“pais das cerejeiras”つまり「櫻の花の国」とも呼んでいます。満開に咲いている櫻の花が風に飛ばされているのを見ると，今年の櫻もそろそろ終わりだけれど，この美しさは来年春が来るとまた見られるのだと思い，次回を楽しみにして待っています。

秋に愛媛県で見た日本の森林は，おもご村や瀬戸内海の赤や黄色がかった山でした。その紅葉のすばらしい山々を見た思い出はいまでも目を閉じると目の前に浮かびます。

たしかにこの四季がはっきりきまっていることによって，山々の色も変化していくというのは，ブラジルには見られないもので，本当に美しいと思います。

私の感覚では日本は山が多く，平地が少なく，しかも，ブラジルでは“pais das mil ilhas”つまり小さな島が何千個と集まっている島と呼んでいることから，ブラジルにあるような大きな木はないと思っていましたが，屋久島には数年とも言えない，縄文杉と呼ばれて，何千年の歴史を持っている杉があることを知り，おどろきました。

また，日本で良く使われている杉も真っ直ぐな幹で，よく建築に使われています。

今，世界でよく問題になっているのは環境を守り，自然を助ける事です。緑を守ると森林が助かる，その上，森林の中に生きている動物も，いろいろな虫も，水も，土も，生態系が守られる事になります。しかし，今ブラジルのアマゾン川流域では，金をとるために，森林をばっさいし，水銀を使ったりしています。これは，森林をだめにし，それから，アマゾン川流域で魚をとって生活している人々にも大きな影響を与えています。また森林のあったところが牧場にされたりしています。これは牧場のほうがもうかるからと言っています。このような状況では，将来きっと，この影響が悪く出るのではないかと思います。その時に後悔してももう遅いのではないのでしょうか？